

新しい『総合事業』が始まりました！

～ できることは『自分で』を合言葉に ～

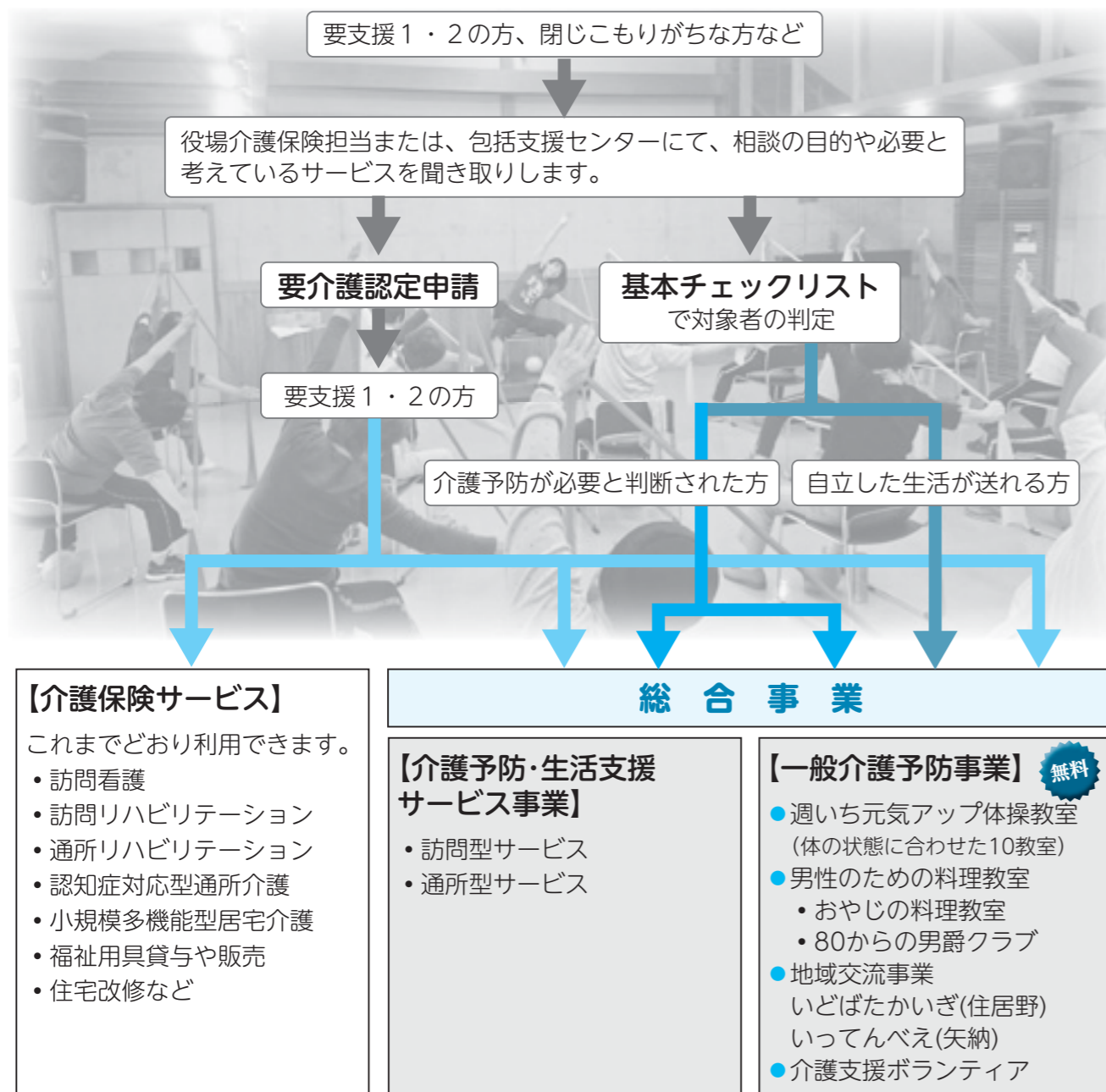
問合せ 地域包括支援センター ☎0495-74-1155

町では、高齢者の方が住み慣れた地域で住み続けられるように、4月より新しい『総合事業』をスタートしました。

要支援1・2の方は介護保険サービスに加え、総合事業で引き続き「訪問型サービス」と「通所型サービス」を利用できます。認定を受けていない方でも、基本チェックリスト(25項目の質問票)で介護予防が必要と判定された場合に、地域包括支援センターと相談しながら、その方に必要な総合事業のサービスが利用できます。

この他に65歳以上の全ての高齢者が利用できる「一般介護予防事業」にも参加できます。

利用できるサービスと利用までの流れ



こんにちは保健センターです

保健センター ☎0495-77-4041

防ごう!女性の乳がん・子宮頸がん・骨折

乳がんや子宮頸がんは早期発見により、治療にかかる時間や費用、身体への負担などが軽くなります。早期発見のために定期的に検診を受けましょう。

また、年齢を重ねると骨密度が減少しやすくなるため、転んで腰や大腿骨を骨折することも多くなります。乳がん検診等と同時に実施している骨密度検診を受け、骨密度を確認しましょう。

乳がん：乳腺にできるがん

- 日本人女性がかかるがんの**第1位**
- 早期であるほど治癒率の高い病気
- 30歳代から増え始め、40～50歳代にピークとなります



症状：早期のうちには自覚症状が表れないこともある

- 乳房のしこり
- ひきつれ
- くぼみ等

乳がん検診

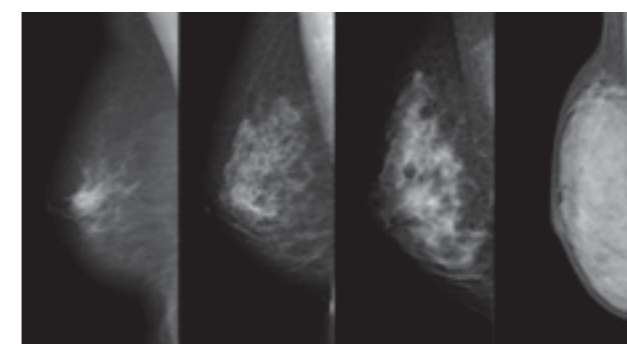
町の集団検診は、平成28年度からマンモグラフィ検診のみとなります。視触診は行いません。個別検診では希望により視触診も行います。

【マンモグラフィ】

乳房のX線検査で左右撮影します。小さながんの発見には効果的ですが、20～30歳代の女性は乳腺が発達しているため、乳腺とがんの区別がしにくくなっています。

下図のように、若い女性ほど乳腺が発達している【高濃度乳腺】が多いので、マンモグラフィだけでは、乳がんが発見しにくい場合があります。

検診結果で「高濃度乳腺」と記載があった場合は、「乳腺外来」等で超音波検査をすることをお勧めします。



低濃度 ← → 高濃度

子宮頸がん：子宮の入り口にできるがん

- 20歳～30歳代の女性がかかるがんの**第1位**
- 20歳代後半から増え始め、30歳代後半がピークになります
- ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染が主な原因です

症状：進行するまで自覚症状があまりありません。

- 不正出血
- おりものが多くなる等

子宮頸がん検診

子宮の入り口の部分を綿棒又はヘラのような器具で細胞をこすり取って調べる検診です。

子宮頸がん検診ではがんになる一歩前の状態（異型成）のうちに発見できます。また、早期治療することで子宮を温存することもできて、術後の妊娠、出産が可能とされています。

骨密度検診

骨密度を測定して、自分の骨量を知っておきましょう。骨粗しょう症は、運動や食事、服薬等で予防できます。

- 乳がん・子宮頸がん・骨密度検診の集団検診は10月からです。申込みをされていない方は、保健センターへお申込みください。
- 乳がん・子宮頸がん検診は町の指定医療機関での個別検診も行っています。
- 日程などの詳細は「保健センター」までお問い合わせください。